

美術科学習指導案

日 時 平成23年9月9日（金） 5校時

場 所 美術室

授業学級 盛岡市立仙北中学校 2年1組

（男子20名 女子16名 計36名）

授 業 者 福田 勝雄

1 題材名 「明日の神話」（鑑賞）

2 題材について

（1）題材について

本題材は、中学校第2学年及び第3学年の2内容B鑑賞（1）「美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通じて、鑑賞に関する次の事項を指導する」のア「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと」をもとに設定している。

本校では、1年時に萬鐵五郎の「雲のある自画像」を使用して対話型鑑賞授業を行っている。元の図版を加工し、「線画の作品」とオリジナルの「雲のある自画像」と2種類の図版を使用して、形と色彩の2つの視点に絞って鑑賞の仕方を学習した。以来、作品を見る視点が形や色彩に視点が向けられたり、他者の意見に共感しようとするようになったりと、授業内での発言も多くなったように思われる。今回の2年生では、自分の感じたことや考えたことを発言し、自分と他者の価値の交流をさせているだけでなく、作者の心情や意図を感じとりながら見方を深めることや、自分の考えをもって、他者と批評し合える力を積み重ねていきたい。

ここでは、今年、生誕100周年を迎えた岡本太郎の代表作である「明日の神話」（1968～1969）をとりあげる。この作品は1954年のビキニ環礁水爆実験により被爆した“第五福竜丸”の悲劇モチーフに、悲劇性や核兵器の破壊力と拮抗する人間の怒りや誇り、不屈の精神が描かれた作品である。炎に包まれた骸骨やおどろおどろしい雲があるなど強烈な印象を与える作品であるが、テーマとなっている史実の悲劇の表現にとどまらず、作者の意図をどこまで洞察することができるかという点について配慮しながら授業を展開していきたいと考える。

（2）生徒について

対話型鑑賞授業については、1年生の時に萬鐵五郎の「雲のある自画像」を使用して対話型鑑賞授業を行っている。以来、作品鑑賞では、作品を見る視点が形や色彩に視点が向けられたり、他者の意見に共感しようとするようになったりと、発言も多くなったように思われる。

しかし、自ら積極的に発言できる生徒は半分程度にとどまり、その他の生徒は考えを持ってはいるものの表現できずにいるように思われる。また、1年生の時の対話型鑑賞では、発表者の発言により個々の考えを全体で共有できたが、2年生ではさらに自分の考えを他者と批評し合えるようにグループで話し合いの場を工夫しながら、主体的に鑑賞する楽しさを味わわせたいと考える。

(3) 指導の構想について

①導入

今回の題材は、メッセージ性が非常に強く、生徒にとって好き嫌いが分かれることが予想されるので、導入の段階では興味を持って作品と向き合う工夫をしたい。また、作品が非常に大きく、短時間で細部の表現に目がいかない可能性があることから作品を分割して見る方法を試みる。

②展開

発問の仕方には十分に配慮し、誘導することなく最低限の観点や伏線となるような指示や説明で展開していきたい。また、生徒間での価値意識の交流を図るために4名の少人数グループで取り组ませたい。グループ学習では、机の配置の工夫や机間指導の中で話し合いを促すように生徒への声かけをしていきたい。

③終末

導入と展開で作品から感じとったことをもとに、さらに「明日の神話」という題名を入口として、作者の心情や意図に迫らせることと、学習プリントを通しながら自分の考えをまとめられるように工夫したい。

3 題材の目標

- (1) 形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取る。・・・【美術への関心・意欲・態度】
- (2) 形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識を持って味わう。・・・【鑑賞の能力】

4 本時の指導

(1) 本時の具体の評価規準

評価の観点 (評価方法)	評価規準 (B)	C 支援が必要な生徒への具体的な手だて
美術への関心意欲態度 【観察法・作品法・自己評価法】	形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	少人数のグループによる話し合い活動をさせることで、発言機会を増やしたい。
鑑賞の能力 【観察法・作品法】	形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。	話し合いの観点を具体的に示したり、より多くのグループの発表から多様な解釈を教師が肯定的に評価することで自分の意見を出させたい。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点（言語活動の充実は下線） ◆評価
導入 20分	1 分割された作品をグループで鑑賞する。 2 分割された作品を提示し、それぞれのグループの話し合いの内容を発表する。 3 作品の全体図の紹介	1 非常に大きな作品で、鑑賞する要素が多いことから、作品を5分割し、グループごとに鑑賞させる。また、個人で鑑賞する時間とグループグループで話し合い時間を設定し、鑑賞への意欲を高める。 2 プロジェクターで作品を提示し、グループで話し合った内容を確認したり、意見を交流したりすることで、対話の組織化をする。また、作品の右側から提示することで、鑑賞した作品が一続きであることに気づかせる 3 渋谷駅構内に展示された図版を提示し、作品の大きさから作品への興味関心を持たせる。 ◆「関心・意欲・態度」「鑑賞の能力」（観察法）
展開 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習課題： 絵が放つ「何か」をみんなで感じ取ろう </div> 4 学習課題を把握し、作品が放つ「何か」をグループで話し合う 5 話し合ったことを発表し合い、交流する。 6 作品の題名を聞き、再度鑑賞するとともに、考えを発表し、自分の考え方や感じ方と比較する。	4 「何か」について考えさせ、主題や作者の意図、メッセージであることに気づかせる。 ・今度は作品全体を見通して鑑賞することに留意させ、主題や作者の意図、メッセージ等について感じとったことを、グループで話し合わせる。 ・ワークシートに観点を記載し、話し合いの方向性を明らかにする。話し合いが進まないグループには、教師が入って話し合いを支援していく。 5 話し合った内容について、グループ代表に発表させるとともに、教師が意図的に意見を交流させ、表面的に見えることだけでなく、主題や作者の意図、メッセージ等についての話し合いになるようにしていく。 6 「明日の神話」という題名を提示し、今までの話し合いをもとに、再度鑑賞し、一人一人よく考える時間を設定することで、感じたことや考えたことをまとめさせる。 ・数人に発表させ、自分の感じ方や考え方と比較させ、相互のよさに気づかせる。 ◆「関心・意欲・態度」「鑑賞の能力」（観察法・作品法）
終 未 5分	7 本時の授業についてのふり返りを書き、発表する。 8 本時のまとめをする	7 授業全体をふり返って、自分の取り組み方や友達の考えとの比較等について記録させ、自分の成長に気付かせたい。 ・全体の取り組み方について、教師から評価を行い、次時につなげていく。 ◆「関心・意欲・態度」（自己評価法）

何が見える?どんな感じ?気づいたことは?

何が見える?

どんな感じ?
気づいたことは?

絵の放つ何かをみんなで感じとろう

何かとは？

何を感じる？